銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—27—

東京支店 神原 勇

マダコ

分類　八腕目　マダコ科（頭足類）
学名　*Octopus*　*vulgaris*
英名　Devil fish

全世界の海洋に分布し，日本アジア諸国及び地中海沿岸諸国のイタリヤ・スペインでは食用として賞味されるが，他の国々では英名の Devil fish（悪魔の魚）と呼称されるように毛嫌いされる事おびただしい。

イカ類の10本足と並んで８本足のタコ類は頭足類に属し，学名の ***Octopus*** は８本足を意味し語源的には October（10月）の Oct と同義である。８本足は足でなく実は４対の腕で各腕は傘膜（さんまく）と呼ばれる薄い膜でつらなり合って，スカートのように拡げて相手を威嚇したり，大好物のカニ・エビ等の甲殻類をこの傘膜の下方に取り集めておいてチラミン毒素を含んでいる唾液をふりそそぎ，一瞬のうちに殺し捕食するが，空腹満腹を問わず見つけ次第捕いその食欲は旺盛且貪食である。

二枚貝類も好物の一つで俗説にはタコが海底の小石を腕で押え，二枚貝を小石で叩き割って中身を食べると言われているが，いくら知能が進んでいるとは言い道具を使用するとは考えられない。二枚貝の貝殻の縁の部分を鋭く尖った顎板（カラストンビ）でこわして食べるので，タコの生息する岩穴の廻りには食べ捨てた貝殻が四散しているのが通例である。このような食性のためタコの群集体が二枚貝や真珠の養殖場を襲い大きな被害を与える事がある。

タコ類は胴，頭，腕の各部から出来ていて，我々が普通頭と呼ぶのは胴部で各種の器官が内蔵されていて外套膜の切れ目からは漏斗が突出し海水を取り入れ胴部中央部やや上方にある鰓で呼吸し再び漏斗より吐き出す。又胴部の最奥部には貝殻の痕跡をとどめている。胴部の真下の眼のある部分が頭部で眼球・脳・口球・歯舌・顎板があって顎板を囲むように腕を動かす神経が分布し脳へと集中している。

腕に２列に並んだ吸盤があるが，同類のイカの吸盤には角質の輪と柄をもっているが，タコは柄をもたず，弾力性のある筋肉質から出来ている。他のものに吸着するには表面が滑らかでなければならないので常に新しく保たれ，古い皮質は脱落し新陳代謝が盛んに行われている。吸盤は良く発達した化学的触能をもっているので他のものに触れただけで味覚を確認し得る能力をもち，又吸盤の縁部には感覚器官が分布し，触れたものの形や違いなどを識別する。

タコの皮膚は黄色・赤褐色・紫黒色の３つの部分から出来ていて前二者は有機溶剤に可溶で，紫黒色は溶けないが，うすいアルカリ溶液には溶ける。このとき紫黒色は赤色化する。タコを煮るとタコの体内のアルカリ性物質がゆで汁に溶けるので皮の蛋白質と結合して赤変する。店頭で販売しているもののうち，鮮赤色をしたものは着色したもので，煮ただけの自然のものに赤紫黒色を呈する。

カニ，エビ等の甲殻類及び二枚貝類にとってタコは天敵であるが，タコの天敵はウツボである。タコが岩穴から這い出したところを見付けたウツボは直ちに襲撃する事なく，ウツボは鋭い歯をむき出し，タコは胴を平らく延ばし傘膜を拡げ，互いに威嚇対峙する。隙を見つけるとウツボは猛然と突進し，タコの腕をくいちぎり眼の周辺の頭部を攻撃する。タコはウツボの鰓蓋に狙いをつけ，腕で吸い着き窒息死させると言う死闘が続けられる。

マダコ

分類：八腕目　マダコ科（頭足類）
学名：Octopus vulgaris
英名：Devil fish

全世界ノ熱帯カラ亜寒帯マデ分布域ガ広イデアル。頭ノヨウニ見エル胴ハ各種内臓諸器官ガアリ、外套膜ノ切レ目カラ海水ヲ取入レ鰓ノ呼吸ヲ行ナイ太イ水管ノ漏斗カラ仕ズス。頭ノ眼部分ガ脳，口ヨリ顎板（カラストンビ）等ガアル。４対ノ腕ガアリ ソノ下面ニハ吸盤ガ２列ニ並ガ吸盤ハ触ッテ判ル様ニ感覚器，味ノ識別ヤ化学的触覚能ガ良ク発達シテイル。ニ枚貝、甲殻類ガ大好物デ傘膜ト呼ブ腕ヲツナグシスク月真ノ下ニ取リ集メ唾液腺ニ含マレル チラミン毒素ガ捕リ捕食スル。３本ノ筋肉質ニ富ミ機敏ナル運動、物ヲツカム強カナ力、忍法モドキノ体色ノ瞬ニ変ル能力、高度ニ発達シタ眼 優レタ知能 等、攻撃、防御共ニ完璧ニ近クモノデアルガ只一ツノ弱点ハウツボ類デアル。

同属ニハ遠カ大型ノミズダコ（Octopus dofleini）ガアル。

北朝鮮　-1965

ウルグアイ　-1968

サンマリノ　-1966

キューバ　-1967

ニウエ　-1972

沸領 アファイ・イサス　-1973